

会 議 要 旨 録

会 議 名	令和５年度第３回三郷市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和６年２月６日（火） １３時３０分開会
開 催 場 所	三郷市 健康福社会館 ５階 ５０１・５０２会議室
出席者氏名	岡田会長、佐々木副会長、市川委員、豊田委員、多田委員、小川委員、佐野委員、船引委員、高野委員（欠席：佐藤委員、杉橋委員、岩瀬委員、杉浦委員、高橋委員、小林委員）
傍 聴 者	０名
事務局職員	須賀子ども未来部長、高橋子ども未来副部長兼子ども支援課長、岡安子ども支援課長補佐兼子ども支援係長、須永子ども支援課主幹兼子育て支援ステーション所長、中井子ども未来部参事兼すこやか課長、玉江すこやか課長補佐、黒木すこやか課保育係長、木原教育総務課長、西村学校教育部参事兼指導課長、千代田子ども政策室長、木下子ども政策室主幹、野本子ども政策室主査、飯箸子ども政策室主査
会議次第 １ 開 会 ２ あいさつ ３ 議 事 （１）「（仮称）第３次みさと こども にこにこプラン」について （２）その他 ４ 事務連絡 ５ 閉 会	
会議資料 資料 令和５年度 子ども・子育てニーズ調査等 アンケート回収状況速報 当日配布資料 令和６年４月 認可保育所等の認可、変更、利用定員について	

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
事務局	1 開 会 2 会長・須賀部長あいさつ (会議成立の報告) 本日の出席委員数は15人中8名、子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立いたしますことを、ご報告いたします。 ※その後、船引委員も出席し、9名となった。
事務局	(傍聴者の報告) 本日、傍聴希望者がおりませんのでご報告いたします。
事務局	(配布資料の確認)
議長（会長）	4. 議 事 それでは、議事に入ります。 (1)「(仮称)第3次みさと こども にこにこプラン」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	・「(仮称)第3次みさと こども にこにこプラン」について説明
議長（会長）	「第2次三郷市児童育成行動計画（後期）」について説明及び事前質問に対する回答がありました。その他に委員から何かございますか。
議長（会長）	今後のスケジュールですが今日、速報がありまして、次の会議が令和6年6月になるのですが、6月に骨子案ができるということですから、今日委員の皆さんからいろいろご意見いただけるとありがたいと思います。 私はどうしても乳幼児に関心があるものですから、この速報を読ませていただくと、その子育ての悩みとか、緊急にこどもを見てくれる人がいない方がこんなにいらっしゃるのか、そう考えると、やはり一時保育などの充実をお願いしたいと考えます。
委員	前回、私から意見を出させていただいたように国籍がわかるとか、何か日本と比較でき、ご自身の国と比べてみたりできると思います。こちら速報ということなので、また今後どういうプランが出来上がるのか、詳細な情報をいただけるものとして期待というか楽しみしております。

議長（会長）	委員の意見に関連しますが、先ほど事務局から説明のあった調査項目の変更点のところで、多言語対応ということで、今回QRコードを記載して、翻訳機能の活用ということなのですが、多言語のアンケート記入者はピックアップして集計というのはできるのでしょうか。
事務局	今回は多言語で回答ができるというよりは、アンケートに書かれていることが、翻訳できるようになっているので、回答自体が多言語されているわけではないので集計は困難です。
委員	アンケートに「いただいた回答は、地域の子育て支援の充実に生かされる」ともの書いているので、自由記載のところで皆さんいろいろ書いていただいているので、これを何か一つでも市の政策とかに反映されれば実感も得られ、今後またアンケートの回答率が上がるかも知れないなと思いました。何か採用というか市の政策とかに取り込めるものがあれば取り込んでもらって、この意見を反映させましたというふうにやればいいのではないかと思います。
議長（会長）	もちろんアンケートの各項目のパーセンテージも大事ですが、この自由記載について、これだけ書いてくださるというのはいいことだと思います。そこの部分をぜひ骨子の方に反映させていただければなと思います。
事務局	事務局より補足ですが、自由記載のところは皆さん一生懸命書いてくださる方が多く、枠いっぱいにならぬように裏面にたくさん書いていただきました。その中で、いろんな意見があるところを吸い取って生かせるもの、それから参考とさせていただくもの、いろいろ貴重なものをいただきまして本当にありがたいと思っております。
委員	各委員の方々は各団体の代表者だと思いますが、意見を言ったとき、どういう団体の意見なのか私としては知りたいしみなさんも同じだと思います。ただ名前だけ聞いても皆さんの背景がわからないし、各団体間の横の繋がりみたいなものが出てくるためには、お互いどういう団体の代表者なのかわかるよう、事務局にお願いしたいです。 その上でお聞きしたいことは、まず一つには今後のことですが、にこにこプランと結果報告書（子ども・子育てニーズ調査 青少年の生活に関するアンケート調査 結果報告書）というのは、どういう場所で、どんな方々に配布されているのかお伺いしたいです。 私、三郷市青少年育成市民会議に所属している 1 人なのですが、例えばこの市民会議には四つの部会がありまして、特に子ども・子育て会議にすごく関わりが強いというのは、全体的にそうなのですけど、

委員	今日いらっしゃる委員が部会長の子育て応援部会になります。 この子育て応援部会は、学校の就学児健診や中高生に対してもそうですけれども、保護者を中心に親の学習というのを目玉商品としてやっています。いろいろな講座の内容を様々時代の変遷とともに、ニーズと共に考えてですね、部会長さんが中心になってやっています。 その中に 20 数名のファシリテーターがいて、保護者や中高生に話をする機会を学校の要請を受けて 1、2 名のファシリテーターが担当していろいろな話をしています。 私も見学させてもらったことが過去にあるのですが、悩み抜いているような何かコミュニケーションがなかなか他の方と取れないような方が、いろいろな話を聞いて、また他の保護者といろいろなコミュニケーションを取ることによって、帰るときには笑顔で帰って行きます。 やはり様々な課題や悩みというのがその場に出てくるのですが、私が言いたいことはこの悩みなどを、せっかく部会長さんも見えているので、にこにこプランと結果報告書を資料として持ち帰っていただいて、行政としてファシリテーターの方々知ってもらえるようにしていくべきだと思います。ファシリテーターがこれをご存知かご存知ないのかでずいぶん違うと思います。 相互の関係で、各団体の委員さんがせっかく集まっているので、ぜひそういう所の連携というのを今後考えていかないと、調査や分析など事務局は本当に大変だと思いますが、行政にできることの範囲外で、ぜひお願いしたいこと、三郷のこどもたちが、良い環境の中に置かれて、本当に健やかに育っていくのではないかと思うので、この点について事務局として前向きに考えて欲しいなと思います。 私は 10 年ぐらい子育て応援部会を経験してしまして、各学校や保育園・幼稚園に呼ばれば行くという形で活動しています。 この会議に出させてもらって、やっと今日、今ご説明いただいて、こどもたちがどういうことを望んでいるかを考える会議なのだということがやっと理解できました。こういうことを市がやっているということ自体、親の学習をやっているとも知りませんでした。 つい先日は三郷高校の道德の授業に我々行かせていただいて、高校生に親になるための講座というのをやっていろいろな話を聞いてみると、そういうのを自然に受けてくれるすごく優しいこどもたちであることがわかったり、資料に書いてあって、すごく気になったのは、身近な大人に対してどのような思いや要望を持っていますかという問いに、特にないと言われると、大人が何もやってないのではというふうに感じてしまったり、特にないではなくて、多分特にないという感覚だと思うのですけれども、好きな大人と嫌いな大人を書いてみてって言ったときに、身近な大人とは高校生になるとアルバイト先の店長だったりして、怒られてばかりいるからそんな大人が嫌いと考えたあ
----	--

	りすると思います。 あとはやはりヤングケアラーの問題で、授業に遅れてくるけれども一生懸命登校して来るという先生の説明を受けて、どうしてかと聞くと、お母さんが脳梗塞で倒れて病院に行くためと。入院させる費用もないのでという話を聞いたりしても、それ以上のことは先生もできないし我々もできない。 そういう子たちはどこでどうして誰が助けているのだろうという思いで毎年帰ってくるので、多分このアンケートにはその感じは出てこないですね。 我々が行ってそういう事案がありますよと言う場所もないし、言ったところで何を解決できるのかもわからないというのと、今回この資料を見たのですが、今日、子育て応援部会でみんなに言って良いのか悪いのかを今日帰りに聞いて帰ろうと思っていました。市でこういうことやっていると説明するために。 やはり連携はすごく大事で、我々も自分たちだけでやっていて、他に宣伝しても浸透せずに終わってしまうので、保育園や幼稚園のトップの方々がいたりして、お話いろいろ聞きたいです。40年間幼稚園で体操を教えてきたので、そういうのもすごくこどもに興味があるということもあるので、もしそういうことができるのであれば、皆さんがどういうことを考えて、どういうふうにしてきたのかがわかるとよりいいかなと思います。
議長（会長）	貴重なご意見をいただきました。先ほど事務局説明の資料の図にもありましたが、この資料の中で、地域の子育てネットワークの充実ということで、未就学小学生の保護者からの意見があります。それから、その子育て情報のわかりやすさということでどちらかというとわかりにくいというご意見や、それから三郷市のホームページをもっと充実させてほしいというご意見もあるということで、なかなか職員の皆さん一生懸命やっというわけですけどそれがなかなか、伝えきれていないという部分があるのかというのを実感して感じました。そういうところもぜひ改善していただければと思います。
委員	保育園の園長をしております。 アンケートを実施するといろんなことが見えてくるというところで、率直な意見としては、すごく莫大な量ですけども、回答ただけていて本当に良かったなというところが意見としてはあります。 それから保育園の立場からという語弊があるかもしれませんが、こどもの子育てというところでは、先ほどからも出ていますが、情報であったり、悩みだったり、そういったところの単位からすると、今親御さんがどのような子育てしているのかわからない。 この遊ばせ方とかしつけについてが、多分悩んでいると、それから食

事務局	べるっていうところの意味合いも含めて食事と栄養のこともベスト3とかに入るかと思います。 なので、そこはやはり親御さんの子育てについてどういうふうに発信をしていけばいいのかということは、しっかりと考えていかないとこどもがちゃんと育っていかないというふうに思います。 それから、幼稚園だったり保育園だったり児童館だったり、様々な各組織のところと一本化して、こどものことについて話をするとか、情報を共有するということは必要なことだと思います。 こども家庭庁ができて、繋がっていくということを含めると、組織同士が情報を共有し、意見交換ができるような場所をもう少し設けていくということが大事なことから考えながら今回アンケートを見させていただいています。 それと、少し私の分野のところとは違うのかもしれませんが、先ほどもお話があったとおり、このアンケートをどのようにどこに反映させていくのかということを明確にした上で、取り組んでいくことが必要かなというふうに感じました。 私も先ほどの委員と同じで、大人に対して特にないと、こどもが全く興味関心ないということはまずいなと思います。特にないという意味合いを良いと捉えるのか、バットとして捉えるのか、全くもう関係ないというふうに捉えるのか、様々な捉え方があるかと思うのですが、私はこの中学校とか17歳までの間も、お子さんたちが大人に興味がないということは非常に大きな問題かなというふうに捉えています。 それとはまた逆に、友達と一緒に何かをしたい、遊びたいとか、お菓子作りをしたいとか、ゲームをして遊びたいとか、そのこどもの自由な時間がないのかなと思います。保育園でもそうですが、小さい頃から習い事でたくさんいろいろとあります。ですので、もうちょっと自由にしてあげたらいいのと思うところがたくさんあるのですけれども、そこは懸念する部分かなというふうに感じました。 一つ質問で、児童館とか、そういったいろいろな遊び場、施設が三郷にもあると思うのですが、これだけこどもが遊べる場所が欲しい、何か活動できる場所が欲しいということは、その児童館の中でそういうことができないのかできるのかというところを個人的に教えていただけたらなというふうに思います。 児童館・児童センターにつきましては市内に3か所ございまして、小学生から高校生まで1人で来ることができますが、時間も決まっていますので概ね大体5時でクローズするのですがその時間から遊びたいというお子さんもいるのではと思います。 その上でもう少し時間延長ができたらいいいのではないかとこのところで、3館がそれぞれ月に一度のタイミングで中高生タイムという名称はバラバラですが、開館時間を延長して中高生の居場所作りという
-----	---

委員	ここで力を入れているところです。 元々開館時間は短めということもあったので、もう少し長いと、もっと家以外、学校以外の場所で過ごせる場所があるのではと思っていました、必要性を大いに感じているところです。 あと本当はもっと言ってしまうと児童館以外というちょっとしたカフェとかそういったところもいいのかもしれませんが、もっともっとそういった場所を広げていきたいと思っていますところです。 児童館などで、例えば何かイベントに参加するとか、そういうような取り組みなどはあるのでしょうか。こどもがそこに行って、誰かと一緒に関わって遊んだりするような、そういう空間があったり、イベントだったりとかがあるのでしょうか。ただ開けていますということではなくて、こども同士が関われるような、そういうような、各児童館や地区センターにあるのかどうかというのを知りたいです。
事務局	児童館につきましては、先ほどもお話がありましたけども、市内に 3 ヶ所ございます。 南児童センターは 40 年、早稲田児童センターは 30 年が経つ施設ですが、それらの中で児童館の職員自体は児童厚生員という名称で職員の方が配置されております。この児童厚生員というのがただ単にその児童館の中でこどもを遊ばせるだけではなくて、例えばグループではなく 1 人でいるような子を他のお子さんと一緒に遊べるように児童厚生員が間に入って、遊びの方を指導するということは行っております。 そういった毎日のこどもたちの見守りだけではなくて、イベント、例えば料理教室、ドッジボール大会、スポーツチャンバラ、卓球、囲碁将棋などという地域で活動されている方を、児童厚生員の方がコーディネートしてこどもと繋げるというのが児童館の特色でございます。 地区センターに関しましては、児童厚生員という括りではないのですが、児童の担当者児童担当者というのがおりまして、児童館のように児童厚生員として、お子さんと繋げるというのはないですが、イベント事業担当者を通じてこども向けのイベントというのを、市内の各地区センターの方で行っているところでございます。
委員	子育てにサポートを必要としている世帯、あるいはサポートが必要だと思われる世帯に対してダイレクトに子育てのサポートに入らせていただいています。 前回の会議のときに、アンケートはどのような目的・方向性で実施するのかお聞きしたところ、全般的なアンケートですということでしたのでそれを踏まえて、事前にお送りいただいたアンケート結果を見ていたりもしたのですが、一番気になったのが、小学校 5 年生の速報で身

議長（会長）	近な大人に対してどのような思いや要望を持っていますかというところの、南北のこどもたちと中央のこどもたちの差が明らかに違うところ、例えば中央の場合は人口流入が非常に激しいところですので、保護者の感度が元々三郷にいらっしゃる方とはちょっと違うところがあるのかなというところはおおよそ想定つくところですが、特にこどもたちがこの数字の額面上を見ていくと、こどもたちが大人に対して何か期待感を表していると思われるのが中央ですが、一方で、南北のこどもたちの数字が低いのは、裏を返せばこどもたちが大人に対して何か言えない状況があるのだろうか、あるのではないかということも当然考えられるかと思います。ですので、数字上でこどもたちは特に何も考えてない、何も思っていないということではなくて、言わせてもらえないような状況はないのかなというところも少し考えていく必要があるのではないかなというのは気になっていました。 逆に、中央の方は大人に対して言いたいことがあるっていうのも合わせて斜めから見ると、言いたいことがあるけど普段言わせてもらえないということも当然あるでしょうし、逆に通常のコミュニケーションはとれているけれど、もっと聞いてほしいんだというこどもが割と大人に対して、はっきりと明確な目的を持って関係を作ろうとしているこどもたちであるということも当然考えられるかなと思います。 ですので、家庭環境とその家庭環境がその地域的な環境の差にもよって大きく変わってくるところもあると思うので、こどもの悩みの差がちょっと見られるところは、その裏の理由がないかというのはこの数字だけでは見えないところで、見ていった方がいいのではないかなというのが気になったところです。 二つ目は、中央の、同じくこどもの大人に対しての要望ですが、こどもが大人に対して関わりを持ちたいと思っているような数字に見て取れますが、逆にこの中央の保護者がこどもの子育てに対しての悩みはどういうものがあるのだろうかというのが気になったところです。 同じようにこどもに対してどう接していいかわからないとか、子育て上どういうふうにどのように子育てしていったらいいかわからないというところに対して、こどもが大人にもっと話を聞いてほしいというところの悩みがマッチすればいいのですが、また違うところで親とこどもの悩みが行き違いになっていると何かさっき言ったとしてもそれがうまくはまるかどうかというのは微妙かなというのが感想としてあります。 委員からご意見ありましたとおり、地域を北南中央と小学校についてはそういう地域に分けて、アンケートの集計をされたわけですが、今ご指摘のように、やはり地域差が見られている。そこを今後の政策にぜひ反映していただけるといいと思います。
--------	---

事務局	ご意見ありがとうございます。 今回速報値のため、小学生3校分ということで、全5校分を集計した結果と、親御さんの方も学校の記入をしてもらっていたりしますので、また北南中央というふうに分けていくことも可能かと思いますので、その後、集計が終わったところでまたお示ししたいと思います。
議長（会長）	それでは次の議事に入りたいと思います。（２）「その他」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	・「その他」について説明
議長（会長）	ただいまのご説明について委員の皆さんからご質問等ございますでしょうか。
委員	幼稚園は3歳児から5歳児まで減少しておりますけどこれは少子化の波を受けての話でしょうか。
事務局	全国的な少子化もございますし、それから三郷市においてもこどもの数は、今高止まりの状況ですけれども、これからもどんどん減っていく見込みとして考えております。 その中で、園の経営部分もあって、定員を減らしていった現状に合わせるという形をとっているということでご意向がございました。
委員	一般市民として応募させていただいております。ただ、ボランティア活動として国際交流協会というところで活動しているのと、私の住まう地域が駅から遠く離れているというところで、そういった目線の意見を活用していただければというところで応募させていただきました。 制度をよく知らないところでお伺いするのですが、定員を減らすということについて、ある一定の理由があるというところで、先ほど少子化というところであったと思うのですが、定員を減らすことによって、その園が何か変わるのか、それとも今後大きく社会情勢が変わってきて、例えばですけれども、移民を受け入れてお子さんがたくさん生まれるような環境になるとか、何かそういう時のために、また定員を増やすということが考えられなくもないかなと思っていて、私のシンプルな疑問は手続きをして定員を減らすということについて、何かにとって変化があるものかいうところがわからなくて、それによって何がどうこうっていうのではなく、園がわざわざ人数を減らすということについて、その市として必要なのかお伺いします。 例えば、先生の人数が足りないから、園児が多いけれども、受け入れられないから減らすっていうことであればサポートのしどころだと思

事務局	いますし、もう単純にこどもがいないからということであればそれはそれで大丈夫でしょうが、ただそこでわざわざ定員を減らすというところについて何かあるのかなと思いました。 利用定員の減少というところでよろしいのかと思いますが、利用定員の減少については、事業者、園の業務運営上の課題を解消するためというのがほとんどだと思います。 先ほどおっしゃったように、保育士が不足しているということで、減らさざるを得ないということ、そういう点もあるかと思います。また、もうその定員の数のこどもが入る見込みがないということも考えられると思いますし、そのあたりについては、園のその業務運営上今後の運営にその利用定員を減らすことで影響を最小限に止めるということが目的だと、こちら認識しております。 一点申し上げますと、この定員を減少するにはですね、国から通知が出ているのですけれども、事業者の届け出で足りるものであるということで、市町村は必要な事項を盛り込んだ届け出を受理せず、利用定員の減少を認めないといったそういう対応をとることというのはできません。 その中で、市町村においては、その事業者との意思疎通を図り、どの園がどのような意向あるのか、その意向を十分に考慮しつつ、その施設の最近の実利用人数がどのぐらいなのかというところの実績は、今後の見込み等を踏まえて、定員を設定しなければならないということになっていますので、その辺りを園からの申し出に応じて協議をして、その結果今回このような現象になっているということでございます。
委員	この資料の中で、こどもの人数が減っているのは、全国的な問題であり、特に0歳児が保育園から消えるのではないかなというようにことも既に国の方の骨子の中では話が出ているようですが、三郷市の方もやはりこどもが減少しているということは現状なのだと思います。 その中でも、今後やはりこどもが育っていった園がなくなるということがないように、それこそ先ほどのアンケートではないのですけれども、子どもの居場所、心の居場所も私はとても大事なことで思っているもので、保育園とか、いろんな企業、企業体であったりいろんな社会福祉法人だったりとかあるかと思うのですけれども、今後、こどもの保育施設、幼稚園も含め認定こども園も含め、施設を残すための政策としてどういうふうに三郷市が考えているのかというのが一つと、それからこんなに減っていても、やはり新設園を作らないといけいいのかというところをお聞かせいただきたいなというふうには思います。
議長（会長）	今のご指摘のとおり、三郷まり一な保育園はニーズがあるから新設す

事務局	るということでしょうけれども、ご事情ご説明いただけますか。 三郷まりーな保育園の新設につきましては、令和４年の中間見直しの際に、まだ保育の量が足りないという見込みでもって、かつ待機児童がまだいるというところで、その割合が北部に集中しているという事情を持って新設の保育園を一つということで聞いております。また、皆さんにもお諮りの上でいろんなパブコメ等もいただいた上で新設させていただいたという経緯でございます。 今後のこどものこれからの見込みとしては新設園というのはこれで一旦終わり、一旦落ち着くのではないかという見込みと、あとは既存の園の方々が経営を鑑みて、それぞれご自分の園がどのようなふうにして経営していくかっていうことを考えていくような時代になりましたし、我々も一緒になって考えていかないといけないというところで思っております。 その上で新しく国で行われている施策を踏まえて一緒に考えていくような形になるかと思います。
事務局	委員の方から、今政策についてという話がありましたけれども、三郷市の方も、待機児童が解消されつつある状況に来ております。そういう中で、一時的に待機児童を解消するために小規模保育事業等も含めて保育所を、これは三郷市だけではなくて全国的にたくさん作ってきたというそういう経緯があります。 その中で、中には、例えば小規模保育事業の目的というのは待機児童解消のためにたくさん作ってきたという、全国的にたくさん作ってきたという経緯がありますので、ある一定の役割を終えるだろうと考えられる保育所というのも実際はあるのかなと考えております。 その中で、そのような保育所については、事業者の方で好きにしてくださいということではなくて、今、子ども政策室長が話をしたように、市として、こういうメニューがあり、今後こういうふうな事業展開はどうかといった、そういうサポートというのも一つ必要なのかなと考えております。 また一方で、市の中で待機児童が解消されつつあるのですが、その中で少しずつ空きというのは出てきているのですが、実は非常にまだ人気のある園と、人気がなくなってきて空きが目立つ保育園というのが正直出てきています。 これについては、今、量から質の時代が変わってきているという話もありまして、保育園自体が、魅力ある保育園になるよう工夫をしていかなきゃいけない、そういう時代が来ているのかなというところも、正直考えております。 そういう中で、市の方にいろいろ相談があれば、当然相談に乗ってサポートできるところはサポートしていきたいと考えております。

	今の全体の保育園を今後、引き続き全て活かしながら、そういうことができれば一番いいと思うのですが、どうしても今後、少子化の中で業種替えまたは廃園になってしまう、そういう保育園っていうのは正直出てくるのかなと私現場を担当する職員としてはそういう認識は持っております。
議長（会長）	それでは本日の議事につきましては、以上で終了とさせていただきます。皆様のご協力によりまして、議事を滞りなく終了することができました。ありがとうございます。それでは、進行を司会者にお返しします。
事務局	会長、進行いただき、ありがとうございました。続いて事務局から事務連絡について申し上げます。 4. 事務連絡 ・令和6年度子ども・子育て会議日程（案）について ・組織改善に伴う事務局部署名称変更について 子ども未来部子ども政策室 → <u>こども未来部こども政策課</u> 5. 閉会